



新渡戸稲造 「武士道」を考える

2013年6月21日
株式会社ノビテク
大林伸安



新渡戸 稲造

(にとべ いなぞう)

1862年9月1日－1933年10月15日

日本の農学者・教育者・倫理哲学者

東京女子大学初代学長



著書 Bushido: The Soul of Japan『武士道』は、
1900年(明治33年)に『武士道』の初版が刊行されると、やがて
ドイツ語、フランス語等、各国語に訳されベストセラーとなった。
日本語訳の出版は日露戦争後の1908年のことであった。
現代においても海外で『武士道』は読み継がれている



新渡戸稲造の考えでは

近代において人間が陥りやすい拝金主義や唯物(ゆいぶつ)主義の根っこにある個人主義に対して、封建時代の武士は(封建)社会全体への義務を負う存在として己を認識していたことを指摘している。

同時に新渡戸稲造にとって武士は国際社会において日本人の倫理感の高さ、国民一人一人が社会全体への義務を負うように教育されていると説明するのに最適のモデルであったとするのが今日の一般的な見方である。



武士道とは

「武士道」を一言で表現するならば、

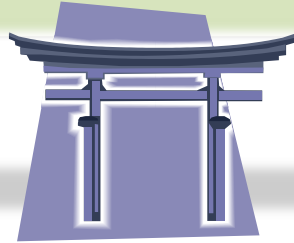
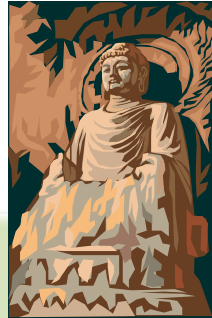
「騎士道の規律」であり、

「高貴な身分に付随する義務」と言える。





孔子(儒教)



武士道の拠り所

一つは**仏教**である。仏教は、運命に対する信頼、不可避なものへの静かな服従、禁欲的な平静さ、生への侮蔑と死に対する親近感を与えた。

もう一つは**神道**である。神道は、主君に対する忠誠、先祖への崇敬、孝心などをもたらした。

道徳的な教義に関しては、**儒教**が豊かな源泉となった。(仁、義、礼、智、信)



道徳大系としての武士道とは

「君に忠、親に孝、自らを節すること厳しく、
下位の者に仁慈(じんじ)をもってし、敵には憐みをかけ、
私欲を忌み、公正を尊び、
富よりも名譽をもってて貴(たつと)しとなす」





義

「義」とは、サムライの中でも最も厳しい規律である。裏取引や不正行為は、武士道が最も忌み嫌うものである。

「義」とは、人が歩むべき正しい、真っ直ぐな、狭い道なのである。

勇

「義を見てせざるは勇なきなり」と言っている。肯定的に言い換えると「勇氣とは正しいことをすることである」となる。つまり、「勇」は「義」によって発動されるものである



義

「経営者として正しいことをきちんと行う。」

勇

Q:「経営者として正しいこととは？」

Q:「亜州梁山泊社長塾の義(正しい行いとは)？」

さあ、みんなで考えよう！



仁

「仁」とは、思いやりの心

礼

「礼」とは、相手を敬う気持ちを目に見える形で表現することである。ただ、動作も重要なものであるが、それだけでは「礼」ではなく。

「礼」に必要な条件とは、泣いている人と共に泣き、喜びにある人とともに喜ぶことである



仁

「経営者として、共感する、人を思いやる」

礼

Q:「思いやりの経営とは？」

ワークライフバランス、女性活用など
さあ、みんなで考えよう！



誠

「誠」とは「言」と「成」という表意文字の組み合わせである。武士にとって、嘘をつくことやごまかしなどは、臆病なものと蔑視されるべきものであった。武士にとって嘘をつくことは、罪悪というよりも「弱さ」の表れであると考えられたことである。そして、「弱い」ということは武士にとってたいへん不名誉なことであった。

忠

忠節とは、主君が進むべき正しい道を説き聞かせることにある。



誠

「コンプライアンス経営と人材の育成」

Q:「コンプライアンス経営を行うためには？」

忠

Q:「次世代リーダー(社員)を育成するためには？」

さあ、みんなで考えよう！